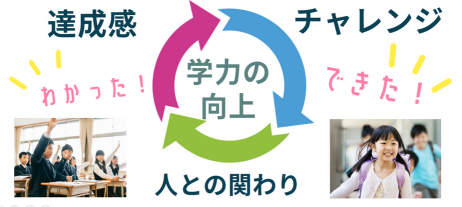


令和7年度 第1回 みえスタディ・チェックの結果について

自己肯定感



三重県教育委員会事務局 学力向上推進プロジェクトチーム

令和7年度第1回みえスタディ・チェックの結果をお知らせします。各学校では、授業改善、学習内容の理解・定着、学習習慣等の確立が一層進むよう、結果の活用をお願いします。

目的

- 児童生徒が自らの学習内容の定着状況を確認し、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む。
- 学習指導要領の趣旨や内容に基づき、児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業改善及び個に応じた指導の充実等、各学校が組織的かつ継続的なPDCAサイクルを確立し、児童生徒の学ぶ意欲や学力の向上のための取組を促進する。

実施日

令和7年度始業式翌日から令和7年5月30日（金）まで

対象学年

小学校第4学年、第5学年 中学校第1学年、第2学年

実施内容

- 実施教科：国語、算数・数学、理科
 - 学習や生活等に関する質問
- ※理科については、小学校第4学年を除く

実施校数

小学校 第4学年 339校 中学校 第1学年 151校
小学校 第5学年 338校 中学校 第2学年 152校

※対象児童生徒が在籍する全ての小中学校等で実施

各教科の平均正答率・平均無解答率

平均正答率

教科	小学校		中学校	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
国語	58.7%	55.2%	55.6%	50.5%
算数・数学	60.9%	55.8%	59.9%	52.3%
理科	—	55.1%	55.1%	44.9%

平均無解答率

教科	小学校		中学校	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
国語	5.68%	8.08%	5.93%	3.17%
算数・数学	2.29%	2.28%	1.62%	7.22%
理科	—	2.40%	2.37%	3.97%

みえスタディ・チェックを活用した授業改善を！

みえスタディ・チェックの実施 学習内容の定着状況を把握・分析

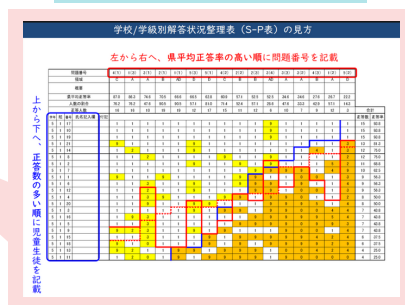
- 県全体（入力校）の状況と自校の結果を比較した分析
- 問題ごとの分析
- S-P表を活用した子ども一人ひとりの学習内容の定着状況を把握・分析



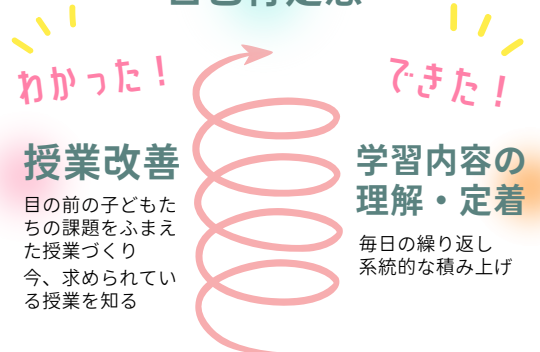
S-P表の活用を！

S-P表から分かること

- クラス全体の強み・弱み
- 児童生徒一人ひとりの強み・弱み



自己肯定感



子どもたちのつまずきを把握

子どものつまずきに対応した授業改善

みえスタディ・チェックを活用した
授業改善のポイントは、2ページから！

個に応じた「できなかった」ところを「できる」ようにする取組

関連問題の活用

みえスタディ・チェック実施後の結果表から、設問ごとに、正解の場合はさらに難しい問題が、不正解の場合は学習内容を遡った問題が提供されます。

みえの学力県民運動ホームページ S-P表、関連問題の説明資料を掲載しています！

https://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/sensei/kyouin_douga/kyouin_douga.html





令和7年度第1回
教科に関する結果
小学校第5学年
国語

各問題の正答率

平均正答率
(平均正答数)

55.2%
(8.3問/15問)

平均
無解答率

8.08%

成果
が見られた問題
(出題の趣旨)

・ 報告文を読み手に分かりやすくするための工夫をとらえることができる（5ー）

平均正答率
68.1%

過去同一問題
正答率
65.6%

改善状況
+2.5

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

・ 相手や目的に応じて筋道を立てて話すことができる（6二）

14.8%

14.6%

+0.2

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	一 「あたらしく」を漢字で書いたときの送り仮名が正しいものを選択する	選択	85.1%
	二 「まったく」を漢字で書いたときの送り仮名が正しいものを選択する	選択	73.1%
	三 文脈に沿って漢字を読む(筆順)	短答	81.7%
	四 文脈に沿って漢字を書く(関心)	短答	35.7%
	五 文脈に沿って漢字を書く(静か)	短答	81.6%
2	接続語を使って一文を二文に分けて書く	短答	41.3%
3	「しゃしん」をローマ字で書いたものとして適切なものを選択する(syasin)	選択	82.3%
4	一 示された述語に対応する主語を選択する	選択	44.1%
	二 主語と述語のつながりが合っていない文を選択する	選択	46.0%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
5	一 調べたことを報告する文章にまとめるときの工夫として適切なものを選ぶ	選択	68.1%
	二 地域の人たちと交流会でしたい昔の遊びを一つ選び、その理由を複数の資料の内容から取り上げて記述する(60字～100字)	記述	29.1%
6	一 話し合いを基に作成した報告で示す資料として、適切なものを選択する	選択	72.2%
	二 【報告内容】の空欄に当てはまるよう【アンケート結果】の質問2から分かることを数字を入れて記述する(50字～60字)	記述	14.8%
7	一 〈絵3〉の場面が始まるまともりとして適切なものを選択する	選択	44.0%
	二 声に出して読むときの工夫とその理由を書く	記述	28.3%

授業改善のポイント

具体的な設問例
6二
正答率
14.8%

相手や目的に応じて筋道を立てて話すことができるかどうか をみる問題
学習指導要領における領域内容
【第3学年及び第4学年】A 話すこと・聞くこと
イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
【第3学年及び第4学年】B 書くこと
ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

話の内容が明確になるように構成を考えたり、資料を活用して自分の考えが伝わるように話す

自分の考えや伝えたい内容の中心が明確になるように理由や事例を挙げ、筋道立てた構成にすることが重要です。指導に当たっては、冒頭で話の中心を述べ、そのことに合わせた理由や事例などを挙げたり、最初に提示した内容と結論がずれないようにしたりすることが大切です。

また、自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になるように記述することも重要です。指導に当たっては、理由を記述する際には、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」など、理由を示すことを明確にする表現を用いること、事例を記述する際には、「例えば～」、「事例を挙げると～」、「～などがそれに当たる」などの表現を用いることができるようにすることが大切です。

第5学年及び第6学年においては、「話の中心を明確に」することに加え、目的や意図に応じて簡単に書く部分と詳しく書く部分を決めたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりすることができるよう指導する必要があります。

【アンケート】

読書についてのアンケート

質問1 この1か月間で本を何冊か読みましたか。一つ〇をつけてください。

① 0冊 ② 1～3冊 ③ 4～6冊 ④ 7～9冊 ⑤ 10冊以上

質問2 あなたが読書をするきっかけは何ですか。最も当てはまるものを1つ、一つ〇をつけてください。

① 友だちがすすめてくれたこと ② 家族がすすめてくれたこと ③ 学校の図書室へ行ったこと ④ 何となく図書館へ行ったこと

質問3 どんな種類の本が好きですか。一つ書いてください。

【アンケート結果】

質問1 (〇をつけた人の数)

① 3人 ② 18人 ③ 4人 ④ 3人 ⑤ 2人

質問2 (〇をつけた人の数)

① 8人 ② 2人 ③ 17人 ④ 3人

質問3

物語 2人
科学の本 4人(うち4人 2.動物 2)
社会の本 3人(歴史 2.世界の文化 1)
スポーツの本 1人
図かん 1人

課題の改善に向けた授業アイデア例

「自分の考えを主張する文章を書こう」

～目的や意図に応じて、自分の考えを支える理由や事例を明確にして詳しく書く～

「令和3年度全国学力・学習状況調査 授業アイディア例(小学校国語)」P5～6

実施対象学年
第5・6年

国立教育政策研究所ホームページ

令和3年度
全国学力・学習状況調査
授業アイディア例



https://www.nier.go.jp/jugyo_urei/r03/index.htm



令和7年度第1回
教科に関する結果
小学校第4学年
算数

平均正答率
(平均正答数)

60.9%
(6.7問/11問)

平均
無解答率

2.29%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

• 長方形の性質について理解し、まわりの長さを求めることができる (8)

平均正答率
70.7%

過去同一問題正答率
67.3%

改善状況
+3.4

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

• 整数の除法の意味について理解している (4)

38.0%

31.9%

+6.1

各問題の正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率	問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	806-9の計算をする	短答	81.2%	6	午前11時40分から午後1時20分までの時間を選択する	選択	61.1%
2	23×38の計算をする	短答	67.1%	7	二等辺三角形を描くための頂点を2つ選択する	選択	45.0%
3	6は2の何倍かを求める	短答	77.0%	8	縦3cm、横5cmの長方形のまわりの長さを求める	短答	70.7%
4	12÷3の式で求められる問題をすべて選択する	選択	38.0%	9	(1) 棒グラフから、からあげが好きな人とシチューが好きな人とでは、どちらが何人多いかを求める	短答	63.2%
5	① 1mを2等分した1つ分の長さを分数で表す	短答	78.9%		(2) 2つの棒グラフの1目盛りの数の違いに着目し、示された事柄の正誤について選択し、その理由を説明する	記述	42.1%
	② 2mを6等分した2つ分の長さを分数で表す	短答	45.5%				

授業改善のポイント

具体的な設問例
4
正答率
38.0%

整数の除法の意味について理解しているかどうかをみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第3学年】A 数と計算

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

4 答えが12÷3の式でもとめられる問題を、下のアからエまでの中からすべて選びましょう。

- ア 12このあめを同じ数ずつ3人に分けます。
あめは1人何こになりますか。
- イ あめが12こあります。
何こか食べたら残りは3こになりました。
食べたあめは、何こですか。
- ウ 12このあめを3こずつふくろにつめます。
あめを全部つめるには、ふくろはいくつありますか。
- エ 12人の子どもにあめを3こずつ分けます。
あめは全部で何こありますか。

数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにする

加法、減法及び乗法と同様に、数量の関係を式に表すことを重視することが大切です。

式に表す指導に際しては、「12個のあめを3人に同じ数ずつ分ける」というような言葉（文章）による表現、○やテープなどの図を用いた表現、具体物を用いた操作などと関連付けながら、式の意味の理解を深めるとともに、記号÷を用いた式の簡潔さや明瞭さを味わうことができるようにすることが大切です。

また、言葉や図などと関連付けながら、「乗法における乗数や被乗数が、除法における除数に相当する」など、除法の式の意味を乗法の式の意味との関係から捉えていくことができるようにすることも大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

「かけ算やわり算の意味を考えよう」

実施対象学年
第3・4・5学年

～問題場面の数量の関係を的確に捉えて、立式する～

「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例（小学校算数）」P9～10

国立教育政策研究所ホームページ

平成30年度
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例



https://www.nier.go.jp/jugyo_urei/h30/index.htm



令和7年度第1回
教科に関する結果
小学校第5学年
算数

各問題の正答率

平均正答率
(平均正答数)

55.8%
(8.9問/16問)

平均
無解答率

2.28%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

• 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算を
することができる (2)

平均正答率
77.5%

過去同一問
題正答率
67.2%

改善状況
+10.3

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

• 小数の除法の意味について理解している (5)

33.9%

31.7%

+2.2

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	214×37の計算をする	短答	76.7%
2	6.79-0.8の計算をする	短答	77.5%
3	85764を四捨五入して、百の位までの概数で表したものを を選択する	選択	61.4%
4	30人が1つの長椅子に4人ずつ座るときに必要な長椅子の 数を求める式と答えを選択する	選択	66.5%
5	1.5÷3の式で求められる問題をすべて選択する	選択	33.9%
6	色をぬった部分の長さが3/4mのテープを選択する	選択	48.4%
7	20mは8mの何倍かを求める	短答	53.1%
8	午前10時45分から午後1時30分までの時間を求める	短答	54.9%
9	重さがおおよそ1kgのものを選択する	選択	67.3%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
10	(1) 90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを 見当付けたものから、正しいものを選ぶ	選択	74.4%
	(2) 分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを 求める	短答	52.6%
11	(1) 示された図形の面積を求めるために、長方形ABHFを長 方形EHCDの上に動かしてできた長方形AHCfのたての長 さを表す式を書く	短答	39.2%
	(2) 30-9が、示された形の面積をどのように求めている のかを、「30」と「9」がどのような図形の面積を表 しているのかわかるように、言葉と数、記号を使っ て説明する	記述	30.6%
12	(1) 本の貸出冊数について、3つの棒グラフから分かるこ ととして正しいものをすべて選択する	選択	40.1%
	(2) 二次元表の「24」がどのような数を表しているかわ かるように、表の中の言葉を使って説明する	記述	53.0%
	(3) 二次元表の の部分の数を使って描いた棒グラフ を選択する	選択	63.3%

授業改善のポイント

具体的な設問例
5
正答率
33.9%

小数の除法の意味について理解しているかどうかをみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第3学年】 A 数と計算
(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。
(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

【第4学年】 A 数と計算
(4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(エ) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。

5 答えが1.5÷3の式で求められる問題を、下のアからエまでの中から
すべて選びましょう。

ア ロープを切って、1.5mのロープを3本作ります。
ロープは全部で何mありますか。

イ ジュースが1.5Lあります。
このジュースを3人に等しく分けると、1人分は何Lになりますか。

ウ 3mの重さが1.5kgのパイプがあります。
このパイプ1mの重さは何kgですか。

エ 水を3つのバケツに等しく分けたら、1つ分が1.5Lになりました。
はじめに水は何Lありましたか。

数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにする

加法・減法及び乗法と同様に、数量の関係を式に表すことを重視することが大切です。指導に当たっては、問題場面をテープなどの図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動や、乗法や除法の問題場面を複数提示することで、問題場面を的確に捉えて立式する活動が考えられます。

例えば、乗法の問題場面と除法の問題場面をそれぞれ表した、テープの図と数直線を合わせた図を比較する活動が考えられます。その上で、□の場所が異なることを確認し、割合に当たる大きさを求める場合には乗法が用いられ、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにすることが大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

「かけ算やわり算の意味を考えよう」

～問題場面の数量の関係を的確に捉えて、立式する～

「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例（小学校算数）」P9～10

実施対象学年
第3・4・5学年

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

国立教育政策研究所ホームページ

平成30年度
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/jugyo_urei/h30/index.htm

令和7年度第1回
教科に関する結果
小学校第5学年
理科

平均正答率
(平均正答数)

55.1%
(12.1問/22問)

平均
無解答率

2.40%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

- 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している(4(4))

平均正答率
62.6%

過去同一問題正答率
59.8%

改善状況
+2.8

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

- 実験結果を基に、空気のあたたまり方について考察して分析したことを、日常生活にみられる事象と結び付けて適用することができる(6(4))
- モーターを回すために、誤った乾電池のつなぎ方を改善することができる(7(2))

平均正答率
32.2%

過去同一問題正答率
43.5%

改善状況
-11.3

平均正答率
52.6%

過去同一問題正答率
57.1%

改善状況
-4.5

問題番号	問題概要	問題形式	正答率	問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	(1) 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	選択	81.4%	5	(4) 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	短答	62.6%
	(2) 自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	記述	47.4%		(1) 台ばかりの目盛りを読む	短答	66.8%
	(3) 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	選択	66.8%	6	(2) ランドセルを背負って体重計に乗ったときと同じ重さになる体重計の乗り方を選ぶ	選択	68.6%
	(4) 資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	選択	65.9%		(1) 実験結果を基に、水のあたたまり方について考えた文の空欄に入る適切な言葉を書く	選択	76.8%
	(5) 育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	選択	50.6%		(2) 空気のあたたまり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を書く	選択	52.3%
2	(1) サクラが開花する地域をデータを基に選ぶ	選択	49.1%		(3) 空気のあたたまり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	選択	65.0%
	(2) 気温の正しい測り方を選ぶ	選択	33.2%	7	(4) 空気のあたたまり方の実験結果を基に、部屋全体を早くあたためるには、エアコンの風の出る向きを下にすればよい理由を書く	記述	32.2%
3	方位磁針の適切な操作方法を選ぶ	選択	37.3%		(1) プロペラがより速く回る回路を選ぶ	選択	55.5%
	(1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	選択	67.5%		(2) プロペラが回らなかった回路を選ぶ	選択	52.6%
4	(2) 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	選択	51.9%		(3) プロペラが回る適切な方法を選ぶ	選択	69.3%
	(3) 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	選択	29.6%		(4) 回路に流れる電流の向きと大きさを検流計を使って調べる	選択	30.8%

授業改善のポイント

具体的な設問例
7(2)
正答率
52.6%

モーターを回すために、誤った乾電池のつなぎ方を改善することができるかどうかをみる問題

学習指導要領における区分・内容
【第4学年】A 物質・エネルギー
(3) 電流の働き
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを。

7
(2) 図3のアからエのうち、プロペラが回らなかったものはどれですか。下のアからエまでの中から1つ選びましょう。

既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する！

電気の回路について乾電池とモーターなどのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子に着目して調べる活動を通して、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することが大切です。
指導に当たっては、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するとともに、乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを捉えられるよう指導することが大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例
「電流は回路の中をどのように流れているのだろうか」
～実験結果の見通しを伴った解決の方向性について構想し、より妥当な考えへの改善ができる～
「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 (小学校理科)」 P17～P18

詳細は右記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。
国立教育政策研究所ホームページ
平成30年度
全国学力・学習状況調査
授業アイディア例
https://www.nier.go.jp/jugyo_urei/h30/index.htm
実施対象学年
第4学年



令和7年度第1回
教科に関する結果
中学校第2学年
国語

平均正答率
(平均正答数)

50.5%
(8.1問/16問)

平均
無解答率

3.17%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

・ 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している (3二(1))

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

・ 比喩を用いた表現について理解している (1四)
・ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる (4三)

平均正答率

63.0%

過去同一問題正答率

61.9%

改善状況

+1.1

平均正答率

39.3%

(参考値)

50.4%

(参考値)

-11.1

(参考値)

平均正答率

34.0%

(参考値)

43.2%

(参考値)

-9.2

(参考値)

※(参考値) …全国学力・学習状況調査の平均正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	一 下線部「このまま」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	選択	73.7%
	二 相手や場面に合わせて正しい敬語を選択する	選択	42.0%
	三 傍線部「なかった」の主語として、適切なものを選択する	選択	41.1%
	四 「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す	短答	39.3%
2	一 案内文の形式について適切なものを選択する	選択	41.7%
	二 小学生向けの案内文にふさわしい表現に書き直す	短答	58.9%
3	一 「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	選択	33.3%
	二(1) 「喝采してやる」について、誰の動作なのかを選択する	選択	63.0%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
3	二(2) 「とった」について、誰の動作なのかを選択する	選択	55.3%
	三 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	記述	26.6%
4	一 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	選択	51.1%
	二 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	選択	36.4%
	三 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	記述	34.0%
5	一 意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	選択	68.4%
	二 意見文を直した意図として適切なものを選択する	選択	68.1%
	三 意見文を直した意図として適切なものを選択する	選択	75.5%

授業改善のポイント

具体的な設問例

4三

正答率

34.0%

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうか をみる問題

学習指導要領における内容

【第1学年】A 話すこと・聞くこと
オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

④

三 話し合いの一場面の山岡さんの最後の発言を受け、あなたなどのような考えを述べますか。

次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なれ、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いて。

条件2 「話し合いの一場面」の誰の発言と結び付けてくることができるように書いて。

(図) フィルターバブル現象

自分の好きな情報「2021」に偏る。多様な意見が反映されにくい。多様な意見が反映されにくい。

(解説) インターネット上で検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、知らない・判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見が反映されにくくなる状況を「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

(質問) 山岡さん: 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん: 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っていたと聞いていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

(解説) の例と同じような状況ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、実際に「フィルターバブル現象と本の選び方」について話し合ってみませんか。

山岡さん: 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて自分の考えをまとめる

話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてのどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要です。例えば、グループで話題を決めて話し合う学習活動では、話し合いの序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理したりすることが重要です。その上で、自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べるように指導することが大切です。また、自分の考えが話し合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかななどを振り返らせることも効果的です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

話題や展開を捉えながら、発言を結び付けて自分の考えをまとめる

国立教育政策研究所ホームページ

令和6年度
全国学力・学習状況調査
報告書

<https://www.nier.go.jp/jugyo/urei/06/index.htm>

令和7年度第1回
教科に関する結果
中学校第1学年
数学

各問題の正答率

平均正答率
(平均正答数)

59.9%
(10.2問/17問)

平均
無解答率

1.62%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

• 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる
(10 (3))

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

• 小数の除法の意味について理解している (2)
• 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している (10 (2))

平均正答率

63.8%

過去同一問題正答率

46.8%
(参考値)

改善状況

+17.0
(参考値)

28.7%

37.3%

-8.6

32.3%

42.3%

-10.0

※ (参考値) …全国学力・学習状況調査の平均正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率	問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	$8+0.5\times 2$ を計算する	短答	75.9%	9	(1) 水平になっていない辺を底辺としている直角三角形の面積を求める	短答	55.9%
2	答えが $15\div 0.6$ の式で求められる問題を選ぶ	選択	28.7%	(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	選択	71.1%
3	4mのリボンの長さは10mのリボンの長さの何倍かを求める	短答	32.6%	(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	記述	42.4%
4	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれの式が何を表しているのかを選ぶ	選択	69.6%	10	(1) 果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	短答	69.2%
5	円柱の体積を求めるための式を答える	短答	66.6%	(2)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	選択	32.3%
6	三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ	選択	58.9%	(3)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	記述	63.8%
7	AとBの2つの小屋の混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	選択	56.8%	11	(1) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	短答	81.9%
8	(1) 反復横とびの記録の中央値を求める	短答	70.0%	(2)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量について分かることを選び、選んだだけを書く	記述	58.8%
	(2) 度数分布表について、ある階級の度数を求める	短答	83.5%				

授業改善のポイント

具体的な設問例

10 (2)

正答率
32.3%

示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題

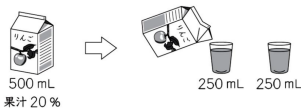
学習指導要領における領域・内容

【第5学年】C 変化と関係

(3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

10

(2) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、

上の○にはある文を、下のアからウまでの中から1つ選びなさい。

ア 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。

イ 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。

ウ 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする

日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解できるようにすることが重要です。その際、飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすることが大切です。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、果汁が含まれている飲み物を二つに等しく分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合は変わらないと判断する活動が考えられます。その際、生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにすることが大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

「飲み物の量が変わったときに
果汁の割合がどうなるかを考えよう」

～数や式と日常の具体的な場面を関連付ける～

「令和4年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校算数）」P50～51

実施対象学年
第5学年

国立教育政策研究所ホームページ

令和4年度
全国学力・学習状況調査
報告書



<https://www.nier.go.jp/jugyo/uri/r04/index.htm>



令和7年度第1回
教科に関する結果
中学校第2学年
数学

平均正答率
(平均正答数)

52.3%
(10.5問/20問)

平均
無解答率

7.22%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

数量の大小関係を不等式に表す方法を理解している
(3)

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確に捉えることができる (13 (1))
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる (14 (2))

平均正答率

57.2%

過去同一問題正答率

55.1%

改善状況

+2.1

40.9%

44.0%

-3.1

30.0%

33.5%

-3.5

各問題の正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	$2 \times (-3^2)$ を計算する	短答	66.6%
2	60 を素因数分解する	短答	61.2%
3	「ボールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を選ぶ	選択	57.2%
4	$2x = x + 3$ の解について正しい記述を選ぶ	選択	55.1%
5	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	選択	65.7%
6	中心角120°の扇形の面積について正しいものを選ぶ	選択	71.9%
7	立体の辺が底面に垂直であるかどうかを調べる方法として、正しいものを選ぶ	選択	53.8%
8	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	短答	38.1%
9	$y = -2x$ 上の点を選ぶ	選択	37.5%
10	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	短答	38.1%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
11	生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の中央値が24mだったことについて、正しく記述しているものを選ぶ	選択	69.6%
12	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	選択	32.7%
13	(1) 示された模様の中で、平行移動で重ね合わせることができる三角形の個数を求める	短答	40.9%
	(2) 2つの三角形はどのような回転移動によって重なるかを説明する	記述	14.8%
	(3) 正方形の紙を2回折りにし、切って開いた模様が、示された模様になるものを選択する	選択	76.8%
14	(1) 与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を選ぶ	選択	84.2%
	(2) 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	記述	30.0%
15	(1) 待ち時間の範囲を求める	短答	45.5%
	(2) ヒストグラムから待ち時間が60分未満の来院者の人数を求める	短答	80.4%
	(3) 「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言いきれない」と主張することができる理由を相対度数を用いて説明する	記述	26.0%

授業改善のポイント

具体的な設問例
14 (2)
正答率
30.0%

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題
学習指導要領における領域・内容
【第1学年】C 関数
(1) 比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(イ) 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

14 (2) 競争さんは、2分をはかるために、砂時計に必要な砂の重さを調べます。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、砂の重さが増えてもすべての点が同じ直線上にあると考えることにしました。

このとき、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に必要な砂の重さを求める必要はありません。

※解答は、解答用紙に書きなさい。

調べた結果

砂の重さ x (g)	0	25	50	75	100
砂が落ちきるまでの時間 y (秒) <td>0</td> <td>11.9</td> <td>24.2</td> <td>36.0</td> <td>48.3</td>	0	11.9	24.2	36.0	48.3

問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるように指導することが大切です。

また、様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切です。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切です。

指導に当たっては、「砂が落ちきるまでの時間」は「砂の重さ」に比例するとみなした上で、例えば、グラフを用いて問題を解決する場合を取り上げ、その方法について、原点Oを通る直線のグラフをかくこと（「用いるもの」と、 x 座標が120のときの y 座標を読むこと（「用い方」）の両方を指摘し、問題解決の方法を的確に説明する活動を取り入れることが考えられます。

課題の改善に向けた授業アイデア例
「2分をはかる砂時計を作るために必要な砂の重さを予想しよう」
～2つの数量の関係を比例とみなして数学的に考察する～
「令和3年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例（中学校数学）」P11～12

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。
国立教育政策研究所ホームページ
令和3年度
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例
<https://www.nier.go.jp/jugyo/urei/r03/index.htm>

令和7年度第1回
教科に関する結果
中学校第1学年
理科

平均正答率
(平均正答数)

55.1%
(11.6問/21問)

平均
無解答率

2.37%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を指摘することができる(1(3))

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に乾電池のつなぎ方を改善することができる(1(6))
メスシリンダーの正しい扱い方を理解している(3(1))

平均正答率

78.3%

過去同一問題正答率

77.3%

改善状況

+1.0

55.0%

66.0%
(参考値)

-11.0
(参考値)

62.5%

70.7%
(参考値)

-8.2
(参考値)

※(参考値) …全国学力・学習状況調査の平均正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	(1) 振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選択する	選択	69.8%
	(2) 振り子時計の進み方を調整する内容を選択する	選択	46.1%
	(3) 振り子時計の軸に用いる適切な金属を選択する	選択	78.3%
	(4) 電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選択する	選択	49.2%
	(5) 電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方について、当てはまるものを選択する	選択	70.5%
	(6) 電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選択する	選択	55.0%
2	(1) 400mLの水に12gの食塩を溶かして408mLになった食塩水の水重さを選択する	選択	36.7%
	(2) 実験前の予想が正しかった場合に得られる結果を選択する	選択	58.2%
	(3) 実験前の予想を振り返り、実験結果から水に溶けている食塩の様子について、より妥当な考えを選択する	選択	78.8%
	(4) 課題に対して適切な考察になるように、実験結果から言えることだけに言及した考察を記述する	記述	43.0%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
3	(1) 水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選択する	選択	62.5%
	(2) 水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選択する	選択	61.7%
	(3) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を記述する	記述	40.4%
4	(1) 顕微鏡の適切な操作方法となるように、示された操作を並べ替える	短答	15.1%
	(2) ヘチマの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選択する	選択	57.1%
	(3) 植物の発芽に必要な条件を調べる実験について、適切な実験方法を選択する	選択	66.7%
	(4) 植物の発芽に必要な条件を調べるための実験の考察について、改善の理由を記述する	記述	45.5%
5	(1) 方位磁針の針の位置から、東の向きを選択する	選択	31.0%
	(2) 太陽とかげが、観察後どのように動くかを選択する	選択	65.5%
6	(1) 3日間の気象衛星の雲画像から、札幌と東京の天気を選択する	選択	75.1%
	(2) 3日間の気象衛星の雲画像から、日本付近の雲の動き方を選択する	選択	51.3%

授業改善のポイント

具体的な設問例
3(1)
正答率
62.5%

メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているかどうか をみる問題

学習指導要領における分野・内容
【第5学年】 A 物質・エネルギー
(1) 物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ウ) 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。

(1) メスシリンダーに、図1のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50mLの水をはかりとるためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

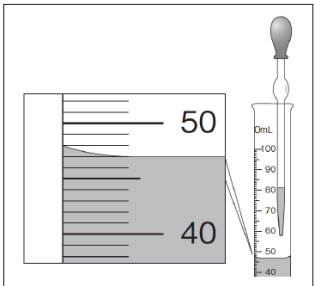


図1

ア 2 mL
イ 3 mL
ウ 4 mL
エ 6 mL

目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける

目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにするためには、どの器具や機器を使用するとよいかについて操作の手順と併せて考えることができるようにすることが重要です。

指導に当たっては、例えば、多くの器具の中で、50mLの水を正確にはかり取るという目的に合うメスシリンダーを選択するために、その役割や目盛りの読み方を確認した上で、はかり取りたい水の量より少ない水の量を最初に入れる理由や、足りない分の水を入れる際、スポイトの先が水の中に入らないようにする理由について話し合い、確かめ合う学習活動が考えられます。

また、はかり取りたい水の量より多く入れたり、水を足す際に、スポイトの先が水の中に入るようにしたりするなどの誤った操作に関する教師の演示から、その結果起こり得ることに気づき、メスシリンダーに関する基本的な技能を身に付ける学習活動も考えられます。

令和7年度第1回
教科に関する結果
中学校第2学年
理科

各問題の正答率

平均正答率
(平均正答数)

44.9%
(9.4問/21問)

平均
無解答率

3.97%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

- 1つの要因を変えるとそのほかにも変わる可能性のある要因を指摘することができる(1(3))

平均正答率

54.3%

過去同一問題
正答率

41.9%

改善状況

+12.4

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

- 過去の大地の変動について、他者の考察を検討して改善することができる(7(2))
- 実験結果から火成岩のできた場所やマグマの冷え方について分析して考察することができる(8(2))

45.8%

59.0%
(参考値)

-13.2
(参考値)

20.8%

30.8%

-10.0

※(参考値) …全国学力・学習状況調査の平均正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	(1) 軟体動物の組み合わせを選択する	選択	86.3%
	(2) 「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を選択する	選択	77.3%
	(3) 明るさを変えるとそれに伴って変わってしまう可能性のある要因を書く	短答	54.3%
2	一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	選択	41.9%
3	(1) 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を選択する	選択	31.3%
	(2) 溶け残りの質量を溶解度に結び付け、重曹を溶かした方の試験管を選択する	選択	40.2%
	(3) 適切なろ過の実験操作を選択する	選択	75.9%
	(4) 温度を下げてても結晶がほとんど析出しない物質を取り出す方法を書く	短答	57.6%
4	(1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	選択	17.7%
	(2) 課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	選択	38.1%
	(3) 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	記述	31.1%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
5	(1) 光の入射角と屈折角の大きさの関係として適切な組み合わせを選択する	選択	48.2%
	(2) 光の屈折によって起こる現象を2つ選択する	選択	59.4%
6	(1) 音の波形を比較し音の高さが高くなった根拠として正しいものを選択する	選択	42.4%
	(2) 音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選択する	選択	36.0%
7	(1) 玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	選択	44.8%
	(2) 過去の垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	選択	45.8%
	(3) 東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	選択	29.5%
8	(1) 無色鉱物の含まれる割合が高い深成岩を選択する	選択	34.8%
	(2) 物質の冷え方とそれによってできる結晶の大きさの実験結果から、火成岩のできた場所やマグマの冷え方について記述する	記述	20.8%
	(3) 有色鉱物が多く含まれる火成岩の特徴について、岩石の色と火成岩をつくるマグマのねばりけの大きさを選択する	選択	28.5%

授業改善のポイント

具体的な設問例

7(2)

正答率

45.8%

時間的・空間的な見方を働かせ、過去に起きたと考えられる事象を推論できるかどうかをみる問題

学習指導要領における分野・内容

【第2分野】(1)大地の成り立ちと変化

(イ)地層の重なりと過去の様子

㊦地層の重なりと過去の様子

地層の様子やその構成物などから地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること。

観察結果から、過去の大地の変動についての推論を検討して改善できるようにする

過去の大地の変動を考える上で、水平方向と垂直方向の移動を関連付け、主として時間的・空間的な視点で捉えて推論することは大切です。

指導に当たっては、観察結果と身に付けた知識を関連付けながら推論の妥当性を検討することが考えられます。

その際、過去の大地の変動について垂直方向の移動だけを推論してしまいがちであると考えられます。

そのため、プレートが移動して海底が山脈になった例などを示しながら、水平方向の移動にも着目できるようにすることが重要です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

「一つの地層を複数の方位から捉え、広がり方や傾きを考える」

「令和4年度全国学力・学習状況調査 報告書(中学校理科)」
p. 68~p. 69

詳細は右記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

国立教育政策研究所ホームページ

令和4年度
全国学力・学習状況調査報告書

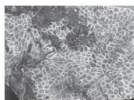
<https://www.nier.go.jp/jugyou/rei/r04/index.htm>



化石から大地の変動を考える場面

学芸員：B地点の露頭では、サンゴ礁をつくる古生代のサンゴの化石をふくむ地層が観察できます。このことから、どのような大地の変動があったと考えられますか。

青木さん：古生代に、浅くあたたかい海で堆積した地層が隆起したと考えられます。



サンゴの化石

学芸員：確かに、そのように考えられますね。しかし、足りない考えがあります。伊豆半島は、南にあった島が北上して日本列島の一部になったと考えられていることや、インド大陸が移動してユーラシア大陸に衝突したと考えられていることを参考に、もう一度考えましょう。

赤井さん：Zと考えられます。

(2) Zに当てはまる最も適切なものを、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

- A B地点は、古生代は浅くあたたかい海であり、サンゴの遺骸をふくむ地層が堆積し、プレートの移動によって海溝に沈んでいった
- I B地点は、古生代は浅くあたたかい海であり、サンゴの遺骸をふくむ地層が堆積し、その後、隆起した
- ウ 古生代の浅くあたたかい海で、サンゴの遺骸をふくむ地層が堆積し、プレートの移動によって運ばれた後、隆起してB地点で観察される
- E 古生代のサンゴの遺骸が、海流に運ばれて堆積した後、隆起してB地点で観察される